

# 筑波大学特別講義

## — 大学と学問 —

科目情報	総合科目（学士基盤科目） 1226051「筑波大学特別講義—大学と学問—」 大学院共通科目 0A00508「UT-Top Academicist's Lecture」
開設学期・曜日時限	秋 AB 水曜日 6時限（16:45~18:00）
科目責任者	山田 一夫（人間系） 柏木 健一（人文社会系） 草野 都（生命環境系）

### ◆ 筑波大学特別講義について 副学長（教育担当） 加藤 光保

高校までの学修は、学修者である皆さん自身が社会において自立して生きる市民として、職業生活、市民生活、文化生活などを充実して過ごせるように学力「知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を向上させることが目的だったと思います。大学における学修にも同じ意義はありますが、それ以上に重要な大学における「学問」の意義は、人類が共有する知識や技能を向上させることにあります。高等教育機関で「学問」を学ぶ人は、初等教育を受ける「児童」や中等教育を受ける「生徒」と異なり、「学生」と呼ぶことが定められています。



学生の皆さんには、これまでの歴史上の記録や私達の記憶にない新たな状況が生起する現在において、様々な分野の知識を集積しつつ、他者との討論で自らを鍛えながら創造的な知性を涵養し、変動する社会に貢献できる課題解決力を身につけることが求められています。

「未来構想大学講座」の5つの科目は、本学における学びの原点として、それぞれに際立った特徴があり、生涯に渡って皆さんに示唆を与える本学ならではの「学問」の入口を提供しています。

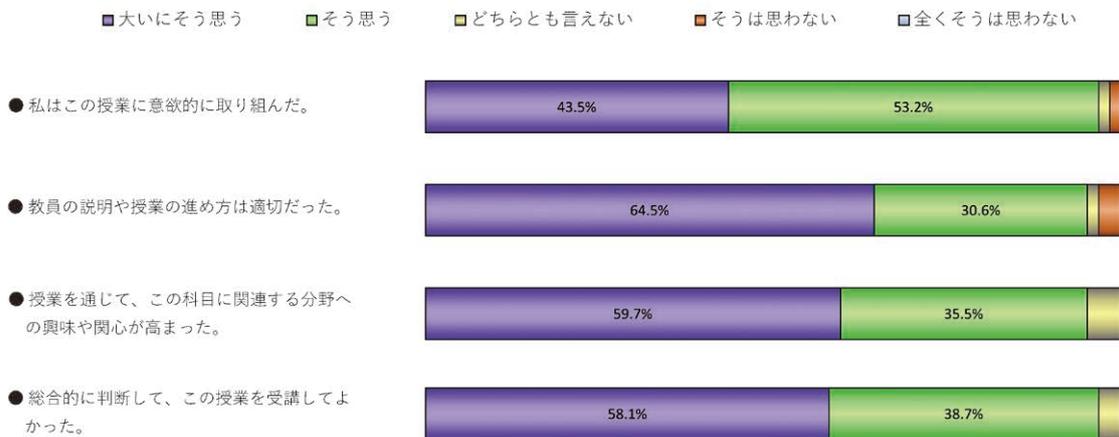
「大学と学問」では、現代社会の様々な分野で新しい世界を切り開いてきた講師陣から、彼らのライフワークについて紹介していただき、勇気を出して質問し対話していただくことで、その生き方、学び方、学問の広がりや深さ、社会での実践に接し、そして自らの将来について深く考えていただくことを期待しています。

### 受講した学生からの反響

受講者アンケートからも分かる様に、講師陣の熱意あふれる講義は大半の受講生にしっかりと届いています。そしてその結果たくさんの受講生達が「新しい知識や考え方が習得できた」「満足できる講義だった」と評価しています。

これまでの講義では質疑の挙手が後を絶たず、時間の関係で終了した後もステージに学生が駆け寄り個々に質問する場面が見られるなど、大変好評でした。この特別講義の感動を、今度は是非あなた自身が体験してみてください！

### 2024年度筑波大学特別講義受講者アンケート結果から（回答者数 62人）



## 講師陣紹介

第1回  
10/1



### 永田 恭介

筑波大学 学長

**プロフィール** アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員、スローンケタリング記念癌研究所研究員、国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、同教授を経て、2001年から筑波大学教授、2009年から学長補佐室長。2013年より学長就任。専門は、分子生物学、生化学、ウイルス学。1993年日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。著書に、「ウイルスの生物学(羊土社)」、「ウイルス実験プロトコル(メジカルビュー社)」等多数。

**授業概要** **大学と学問** コロナウイルス感染症の制御には新たな科学技術が貢献している。他の地球規模課題の解決にも科学技術の発展は欠かせない。加えて、これまでの知の集積を時代に継ぎ、新たな知を付け加えるためには、人材が必要である。基礎科学から創業にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。

第2回  
10/8



### 伊藤 節

筑波大学芸術系 教授、デザイナー

**プロフィール** 筑波大学大学院芸術研究科修了後ミラノに渡り、1995年デザイン事務所設立。プロダクトからインテリア、建築まで多岐にわたるデザインを総合的に行う。世界各国で作品を発表し、ゴールデンコンパス賞(伊)、レッドドット賞、IFデザイン賞(独)、グッドデザイン賞(米)他多くの国際デザイン賞を受賞。作品はミュンヘンとミラノの近代美術館に永久保存されている。ドムスアカデミーなど世界の多くの有名デザイン校で教鞭をとり、現在は筑波大学教授、東京大学先端研特任教授、ミラノ工科大学特任教授を勤める。

**授業概要** **ネイチャーセンタードデザイン** 芸術とは人間の内に備わる感性能力を発揮して表現する行為であり、デザインとは応用芸術として感性を発揮し生活の豊かさを人や社会に提供する行為である。同時に俯瞰知・総合知として現代の難解な社会問題や社会変革に対応する有効なツールである。急激な技術革新と地球レベルの環境・社会問題に対し、自然の一部である人類は如何に人間性を維持・回復し、自然と共生し発展していくための人・もの・社会づくりを目指すべきか。分野を超えた様々なネイチャーセンタードデザインの事例を通して皆さんと一緒に考えていく。

第3回  
10/15



### 本間 三和子

筑波大学体育系 教授

**プロフィール** 大阪市生まれ。筑波大学体育専門学群卒、同大学院修士課程修了、博士(体育科学)。2011年から筑波大学教授、専門はコーチング論。1984 ロサンゼルスオリンピック大会アーティスティックスイミング(AS)銅メダリスト(ソロ3位・デュエット3位)。文部大臣功労賞(1984)、国際水泳殿堂パラゴン賞(2014)、スポーツ庁長官奨励賞(2016)。国際水泳連盟AS技術委員(2000-2022)、アジア水泳連盟AS技術委員長(2000-2024)、日本水泳連盟AS委員長(2009-2023)、国際公認ジャッジ(1994)、国際公認テクニカルコントローラー(2023-)、日本代表チーム強化戦略アドバイザー(2023-)。

**授業概要** **アーティスティックスイミングの秘密を探る：華麗な演技の舞台裏と科学** 脚や腕を水上に保持したまま演技できるのはなぜなのか、一流選手の動きはどうなっているのか。学生アスリート時代に抱いた数々の疑問と知的好奇心が私の探求心に火を付けた。アーティスティックスイミングのダイナミックで華やかな演技の舞台裏を科学的に紐解き、水中におけるヒトの動きの不思議に迫る。

第4回  
10/22



### 柳沢 正史

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IHS)機構長・教授

**プロフィール** 1985年筑波大学医学群卒業、1988年博士課程修了。1991年31歳で渡米し、2014年までテキサス大学にて研究室を主宰。2010年より筑波大学教授を兼任し、2012年より国際統合睡眠医科学研究医科学機構(WPI-IHS)の機構長として睡眠覚醒の謎に挑んでいる。筑波大学大学院生のときに血管収縮因子「エンドセリン」を発見、1999年には脳内の覚醒物質「オレキシン」を発見した。これらの発見は、いずれも上市新薬の開発に直接結びついた。2003年米国科学アカデミー正会員、2016年紫綬褒章、2018年朝日賞、慶應医学賞、2019年文化功労者、2023年ブレークスルー賞、クラリベイト引用栄誉賞など受賞多数。

**授業概要** **睡眠の謎に挑む** 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。

第5回  
10/29



### 林 佳世子

元東京外国語大学 学長、東京外国語大学 名誉教授

**プロフィール** 専門：オスマン朝史、トルコ研究。1984年お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程修了(文学修士)。1988年東京大学人文科学研究科博士課程(東洋史学専攻)退学。1988年東京大学東洋文化研究所助手の後、1993年東京外国語大学外国語学部講師に就任。1996年同大学助教授、2005年同大学教授を経て、2013年に副学長に就任。2019年同大学長(～2025年3月)

**授業概要** **歴史から考える** 皆さんが中学や高校で習った日本史や世界史は、暗記科目だったかもしれません。しかし、歴史を学ぶということは、そもそも、これまでの人類の歩みから今の私たちの立ち位置を考える、という行為にほかなりません。それが、古代の都市の繁栄であれ、ロシアのウクライナ侵攻であれ、過去の出来事を、今の私たちの目で解釈し説明する、そのストーリーが「歴史」となります。そんなことを、私の専門であるオスマン帝国を例に少し紹介したいと思います。

## 講師陣紹介

第6回  
11/12



### 植田 宏昭

筑波大学生命環境学群長

**プロフィール** 筑波大学第一学群卒業。1997年同大学大学院・地球科学研究科修了、博士(理学)。日本学術振興会特別研究員、気象庁気象研究所研究官を経て、筑波大学生命環境系教授。米国国際太平洋研究センター(併任)、北海道大学招聘教授(併任)、日本気象学会理事、地球学類長などを歴任。気象庁異常気象分析検討会委員。異常気象の原因究明や季節予報精度向上に向けて、地球規模の気候システム変動の視点で取り組む。「2年先までの長期予報技術」の特許を取得し、季節予報の啓蒙活動と社会実装を推進中。

**授業概要** **グローバル気候システム研究が解き明かす異常気象：天候予測の最前線** 豪雨、猛暑、暖冬、豪雪、台風の頻発など、異常気象の現象はしばしば地球温暖化(気候変化)が原因とされる。一方で、地球規模の気候システムの変動を考えると、主な変動要因は自然変動(気候変動)であり、地球温暖化はその影響を増幅する要因と捉えるのが適切である。本講義では、異常気象に関する最新の研究成果を紹介するとともに、季節予報の手法について解説する。季節予報は、社会経済活動への活用にとどまらず、防災・減災への貢献も期待されており、産官学連携の重要性がますます高まっている。

第7回  
11/19



### 大倉 浩

筑波大学 名誉教授

**プロフィール** 1958年茨城県生まれ。専門は日本語史、特に『狂言記』を中心とした中近世の日本語。筑波大学大学院単位取得退学。博士(言語学)。1993年筑波大学講師、2008年筑波大学教授、その後、文芸・言語専攻長、人文学類長、人文・文化学群長を経て、現在、筑波大学名誉教授。長年にわたり高等学校国語教科書の編集委員も務める。

**授業概要** **大学で狂言に出会った二人** 本学は、サークルなど課外活動が盛んな大学で、授業とは異なる様々な学びの場ともなっています。大学のサークルを通して狂言という日本の古典芸能に出会い、研究や修行の道として進んできた私たちの体験をもとに、大学で学ぶこと、日本で学ぶことの意味をあらためて考えてみましょう。本学OBで和泉流狂言師である山下先生の実演もお楽しみに。



山下 浩一郎

第8回  
12/3



### 鈴木 健嗣

筑波大学システム情報系長、教授

**プロフィール** 2003年早稲田大学理工学研究科物理学及応用物理学専攻修了、博士(工学)。早稲田大学助手、筑波大学講師、同准教授、及び伊・ジェノヴァ大学、仏コレージュ・ド・フランスの客員研究員を経て、2016年より筑波大学教授。専門は、人工知能、サイバニクス他。本学サイバニクス研究センター、人工知能科学センター、附属病院未来医工融合研究センター設立に参画。2021年よりつくば市顧問としてスーパーシティ業務に従事。

**授業概要** **人々を支援する人工知能とヒューマン・テクノロジー** 人々の残存機能や、本来有する能力を引き出すためのテクノロジーに関する研究を紹介する。これらは、人々の行動の深い理解に基づき、人工知能やロボット等の工学的な手法により行動形成を支援することで、人々が主体性を持って社会的な行動を行う未来を実現するための取り組みである。応用科学と社会実装に携わってきた経験を踏まえ、文理を超えた新しい学問分野や新産業を開拓するため、学術性と実践知を両立する学問の重要性について考える。

06

第9回  
12/10



### 長谷川 康一

UiPath株式会社 会長

**プロフィール** 広島県出身。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。アクセンチュア、ゴールドマンサックス、ドイツ銀行、パークレイズ銀行でコンサルティング、チーフインフォメーションオフィサー、チーフオペレーティングオフィサー等を歴任し、国内外拠点でマネジメントを経験。パークレイズ銀行ではグローバルテクノロジーの3分の1にあたる1万人規模のアジア地域部門をシンガポールで統括する。2017年2月にUiPath日本法人を1人で設立、3年で業界のリーディングカンパニーへ。日本を元気にするために、「1人1人がデジタルロボットを」「現場が主役の、輝く新しい自動化」を提唱している。著書「現場が輝くデジタルトランスフォーメーション」「現場が主役の日本型DX」(ダイヤモンド社)等。

**授業概要** **Brimming with Curiosity (あふれ出る好奇心)** デジタルの時代を迎えた今、「エージェントオートメーション(Agent AI)」が日本社会にどう影響を与えるのかを現在の動向とともに考察し、その中でどのような人材がこれから必要になるのかを、自身がスタートアップの日本法人を立ち上げNYSEでの上場に大きく貢献した体験を通じ、示唆を共有する。

第10回  
12/17



### 波多野 澄雄

国立公文書館アジア歴史資料センター長、筑波大学 名誉教授

**プロフィール** 慶應義塾大学大学院、博士(法学)、防衛研究所研究員、筑波大学助教授(社会科学系)、教授。人文社会科学部研究科長、副学長、附属図書館長。コロンビア大学、ハーバード大学客員研究員。日本国際政治学会理事、軍事史学会副会長、外務省「日本外交文書」編集委員長、日中歴史共同研究委員。近現代日本の政治外交史を専門とし、著作に、『幕僚たちの真珠湾』、『太平洋戦争とアジア外交』、『歴史としての日米安保条約』、『日本外交の150年』、『日本の歴史問題』など。

**授業概要** **「20世紀」に学ぶ** 20世紀は前半の「総力戦」としての二つの世界大戦、後半の「冷戦」として特徴づけられ、また、自由主義、デモクラシー(民主政治)、ファシズム、全体主義といったイデオロギーによる特徴づけもできます。さらに、国民国家が世界を覆うようになり、それを可能にしたナショナリズムの勃興、その一方、植民地主義が批判された世紀でもありました。20世紀の日本は、これらの全てを経験した稀な国といえます。混迷を深める現代世界において、日本は何を指針として生き抜くべきなのか。そのヒントを20世紀史に探ります。